

Q23

CAN-DOリストはどのように作られ、  
検証されたのか？

2017/5/30

火曜日 4限 言語教育基礎 1

槍田 ひかり 5017005

\* CAN-DOリストはどのように作られたのか

日本人英語学習者のCEFRレベルによる  
英語力の分布の推定



すでにあるCAN-DOディスクリプタをもとに  
レベルごとのディスクリプタを作成

# 日本人英語学習者のCEFRレベル

Aレベルが80%

Bレベルが20%

Cレベルがほぼいない

- CEFRのCAN-DOディスクリプタが日本人英語学習者にも適用できるのか？

→ ほぼ可能、ただし要修正

# 修正①

## レベルの枝別れ

**Pre-A1, A1.1, A1.2, A1.3, A2.1, A2.2,**  
**B1.1, B1.2, B2.1, C1, C2**

# 修正②

## CAN-DOディスクリプタの修正

### 発表技能

(Spoken Interaction, Spoken Production, Writing)

①task(performance)

②content(condition)

③quality(criteria)

受容技能(Listening, Reading)「理解の程度」

①task

②condition

③text

## 例) B2.2「聞くこと」受容技能の観点による理解の程度

text	condition	task
母語話者同士の多様な会話の流れ(テレビ,映画など)	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても,	会話の流れについていくことができる。

## 修正③

# CAN-DOディスクリプタのチェック

CEFR, ELPのファイルを検索

技能ごとに関連するCAN-DOディスクリプタを  
チェック



不整合のあったCAN-DOディスクリプタのレベル  
や文言の修正

\* CAN-DOリストはどのように検証されたのか

日本の中・高・大の英語学習者にCAN-DOアンケートを実施し



アンケート結果から項目困難度を算出してディ  
スクリプタの検証と修正

# 学生による自己評価

(1)CAN-DOディスクリプタに基づく学生自己評価  
アンケート

5468名の日本英語学習者(中学生1685名, 高校生2538名, 大学生1245名)による自己評価

## (2)項目応答理論による項目分析

### 項目困難度の算出

→あらかじめ想定されていたレベル順に並ぶかどうか確認

### (3)分析結果

- ・多くの項目は予想通りの並び
- ・「異常な項目」

→新たに枝分かれした下の方のレベルの項目

例)「聞くこと」A1.3~B1.1

「発表」A1.2~A2.2

## (4)問題と解決方法

1. 困難度判断とのずれ
2. ディスクリプタの記述形式
3. 経験の有無
4. 用語の扱い
5. 想定するタスクの難易度
6. タスク遂行条件

# 1. 困難度判断とのずれ

問題1: ある部分の項目に関する学習者の困難度判断は, 予想とは必ずしも一致しなかった。

解決法1: 項目困難度の通りにディスクリプタを並べ替えた。

## 2. ディスクリプタの記述形式

問題2: レベルの異なるディスクリプタに「条件」の繰り返しがあり、質問紙票の元となった日本語版ではこの条件部分がディスクリプタの先頭に来ていたために、それらのディスクリプタがみな同じレベルにあるという印象を学習者に与えてしまった。

解決法2: 日本語版では、日本語のディスクリプタが不自然にならない限り、条件の部分をディスクリプタの真ん中に移動した。

### 3. 経験の有無

問題3: 学習者が経験したことのないCAN-DOディスクリプタは, 想定より難しいと判断された。

解決法3: 日本人学習者にとってなじみのない要素を排除した。

例) 読むこと : A1.2 [難易度高めに判定]

▼ベータ版:「旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な手紙や葉書, メールなどの, 身近な人からの非常に短い簡単な近況報告を理解することができる。」

▼Version1:「身近な人からの携帯メールなどによる, 旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を理解することができる。」

## 4. 用語の扱い

問題4: 専門的な「CEFR用語」から成るCAN-DOディスクリプタは難しいと判断された。

解決法4: 専門的な「CEFR用語」の使用を避けた。

例) やりとり: Pre A1 [難易度高めに判定]

▼ベータ版:「...差し迫った必要性のある領域で, 自分の願望や要求を伝えることができる。...」

▼Version1:「...「助けて！」や「～が欲しい」などの自分の要求を伝えることができる。...」

# 5. 想定するタスクの難易度

問題5: CAN-DOディスクリプタは、広範囲のタスクを含む可能性があり、学習者が想像するタスクはそれらのディスクリプタの書き手が想定していたタスクより、難しかったり、易しかったりした。

解決法5: 例を入れることで、解釈の幅を狭めた。ただし、英語の実例の挿入は、下のレベルのディスクリプタでのみ可能だった。

例)

▼ベータ版: firstやthen, nextといった簡単なつなぎ言葉を使って、道案内をすることができる。

▼Version1: 順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。

## 6. タスク遂行条件

問題6: いくつかのディスクリプタは, タスクの遂行条件のために, 学習者は想定より易しいと判断したり, 難しいと判断したりした。

解決法6: 必要に応じて, 条件を追加したり, 削除したりした。